



総合環境ソリューション企業

**AMITA**

*30<sup>th</sup>* | BUSINESS REPORT

2006.4.1~2007.3.31



【トップに聞く】

環境負荷を下げる。  
廃棄物を価値ある地上資源として再生する。  
アマタの使命は、あらゆる産業が抱える環境への  
課題を最適の方法で問題解決に導くことです。

代表取締役社長  
熊野 英介

### □ 当期の業績について

**Q** 上場後初の業績はいかがでしたか。

売上高は、個別で前年比29.1%増の39億6,110万円、連結で42億153万円(前年度連結の実績無し)でした。

営業利益は積極的な人員確保に伴う人件費や管理費の増加により1億5,347万円、経常利益はヘラクレス市場への上場費用の発生もあり1億1,589万円となりました。その結果当期純利益は5,993万円(いずれも連結)となりました。

当社の事業は人材がもつナレッジ(経験と知恵)の集積力が企業資産といってもよく、優秀な人材獲得は数年後の飛躍に欠かせぬものと考えています。上場により、高い使命感と一定のスキルをもった人材がアマタに合流<sup>\*1</sup>してきてくれました。

\*1 合流: アマタでは個々の主体性を尊重して「入社」を「合流」と呼びます。

**Q** 売上と利益に貢献した主な業務区分について述べていただけますか。

アマタには、「リサイクルソリューション事業」「CSRコンサルティング事業」「ドゥタンク事業」「認証事業」<sup>\*2</sup>の4つの事業部門があります。

現状は「リサイクルソリューション事業」の売上が全体の90%余を占めており、当事業の業務区分を「再資源化業務」「再資源化加工業務」の2つに分けています。残りの3事業は「その他」という1つの業務区分で括っております。

当期は「再資源化業務」が売上の38.1%、「再資源化加工業務」が売上の54.4%、「その他」が売上の7.5%となりました。まだまだ全体に占める割合が小さいとは言え、環境リスク低減に向けた市場のニーズの高まりにより、「その他」で括られた3事業も年々着実に伸びており、利益貢献度を増しています。

\*2 P5、6の事業紹介で概要を記載しています。

## Q 「再資源化業務」と「再資源化加工業務」の違いは何ですか。

「リサイクルソリューション事業」は、事業者が抱える産業廃棄物などに対し、再資源化加工と機能提供を行っている事業です。そのうち「再資源化業務」は、事業者（再資源発生元）から出た産業廃棄物（発生品）をもっともふさわしい形で再資源利用先に結びつける機能をご提供しています。

事業者から費用をいただいて再資源化する場合と、事業者から買い取り、再資源利用先に販売する2つの方法があります。

また、「再資源化加工業務」は事業者から出た産業廃棄物をアマタが培ってきた再資源化技術で再製品として加工し、資源・素材の利用先にご提供するものです。

## Q アミタを知るにはその歩みと事業ビジョンを理解する必要がありますよね。

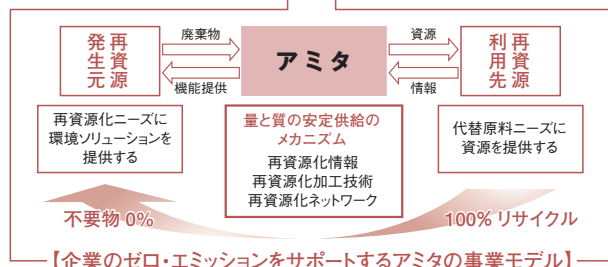
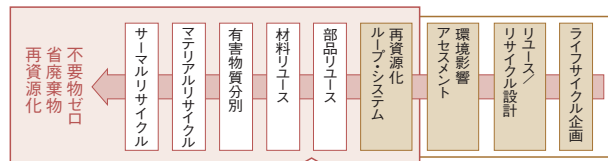
当社の創業は1977(昭和52)年です。創業当時はメッキ素材を扱っていましたが、翌年に起こった第二次オイルショックで販売不振に陥りました。そんな時、取引先から天然資源でなくても安くてもいいものがあつたら買うという話がありました。当時、リサイクル業界といえば、瓶・紙・鉄以外は不要物だというのが常識でした。ところが不要物といわれる廃棄物を分析すると、天然資源よりも純度が高い成分が含まれていることがわかりました。

たとえば、ステンレス鋼メーカーや電池メーカーの汚泥のなかには、5%ものニッケルが含まれているものもあります。天然のニッケル鉱石よりも高い純度です。質が高いことはわかりましたが、問題はどこまで安定的に供給できるかという点にあります。つまり、資源リサイクルのポイントは、「不確実なものをおいかにして確実なものにするか」にあるわけです。高い品質のものが安定的に供給できるとわかれば、その発生品は引く手あまたとなります。

その後、一貫して取り組んできたのがリサイクル資源の“品質と量”の安定供給を可能にする仕組みづくりです。30年を経た今日では、全国に広がる約300社の事業者のネットワークと自前の循環資源製造所により安定供給が可能となり、あらゆる発生元事業者と再資源利用先事業者を結びつけることのできる利便性の高い仕組みに成長しています。ちなみに、当期はさまざまな産業から生まれる年間125万トンにのぼる発生品を「地上資源」として有効活用しました。

### アマタの次世代型オンデマンド・ビジネスモデル

#### 【企業のゼロ・エミッション・ニーズ】



#### 【企業のゼロ・エミッションをサポートするアマタの事業モデル】

## □信頼される総合環境ソリューション企業へ

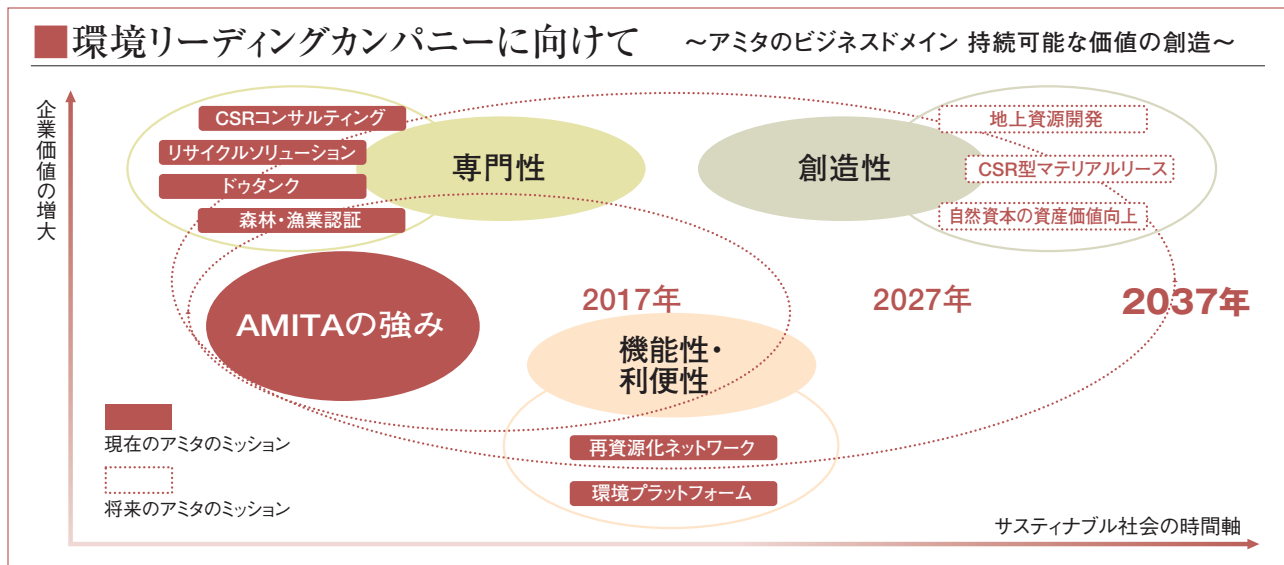
### Q 目指しておられる「総合環境ソリューション」について聞かせてください。

環境ビジネスは、廃棄物から発生するリスクを最小化するための手段と考えられてきました。しかし、これからは積極的な予防措置、さらには産業の環境化そのものがますます求められる時代になっていきます。

ご承知の通り、京都議定書<sup>\*3</sup>に基づいて、欧州企業や日本企業の多くは数値目標（日本6%、米国7%、EU8%）の達成に懸命に取り組んでいます。最近話題のCSR（企業の社会的責任）では持続可能な社会を実現するため「経済・環境・社会

の3つの側面で企業は社会の一員としての責任を果たさなければならないとされています。欧州各国では「CSR大臣」を設置する国も増えており、日本でも「21世紀環境立国戦略」が閣議決定され、環境CSRは世界的潮流となりつつあります。このような時代の風を受けてアミタは“産業の環境化”とともに“社会の環境化”のための問題解決にあたる事業を強化しています。セグメントでは「その他」に括られている「CSRコンサルティング事業」「ドゥタンク事業」「認証事業」です。

「CSRコンサルティング事業」は、すでに大手企業数社からゼロ・エミッション<sup>\*4</sup>に向けた事業提案依頼が数多くあり、法



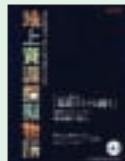
律知識、リサイクル業界の市場知識、業界ごとの製造技術知識や原料知識といった専門性を活かしてご提案を行っております。また、企業からのCSR事業提案依頼も多く、森林河川を守る活動や青少年の環境教育などのご提案、プロデュースをしています。このCSR事業提案を支えているのが「アマタ持続可能経済研究所」を軸に展開している「ドゥタンク事業」です。農林水産業やその資源を地域の活性化に役立てていく理論と実践の専門家集団が、企業や自治体、地元の方々と協力しながら環境化を進めています。

「認証事業」とは、森林が適正に管理されていることを認証する「森林認証」や、持続可能な漁業・水産物を認証する「漁業認証」といった国際的な認証事業の審査業務のことで、制度面からも社会の環境化を進めています。

私たちのこれまでの経験と実績を、アマタの『地上資源採掘物語』として、3冊の冊子にまとめています。これをお読みいただければ、あらゆる産業に対する様々な環境ソリューションの提供が、事業として成長していることを実感いただけます。

\*3 先進国に対して温室効果ガスの発生を抑える数値目標を取り決めた議定書です。

\*4 企業から出る廃棄物を限りなくゼロに近づけることを言います。



## Q 飛躍のポイントをあげてください。

①営業力強化②再資源化加工能力の向上③成長事業の育成です。なかでも営業力の強化は最重要課題です。これまでお客様との接触面積を増やすため、拠点の拡大に力を注いできました。しかし、当社のビジネスは個人のスキルに依存する部分が多いことから、今後は各自の専門性の強化を図るとともに、お客様の潜在需要を呼び起こす営業に重点を移していきます。アマタにはこれまで接触や関係を続けてきた企業の製造部門や環境部門の責任者など約32,000件の顧客名簿がありますがこの資産を有効に活用し、お客様との絆をさらに太いものにしたいと考えています。再資源化加工能力では姫路の製造所に加え、日立化成グループと合併で立ち上げた日化スミエイト(株)を今年4月に吸収合併しました。同製造所は茨城県に位置しており、今後、巨大市場である関東圏における事業化に弾みがつくものと期待しています。また、京丹後循環資源製造所では、食品残渣からバイオガス発電を行うプラントのオペレーションを行い、新分野の再資源化に取り組んでいます。今年創業31年目は、次の30年の1期目と考えています。再資源化市場を創ってきた環境ビジネスのパイオニアとして今後も成長を続け、新たな30年においても新市場を創造して参ります。皆様の末永いご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。



# アマタの環境ソリューション事業

## リサイクルソリューション事業

同じように見える廃棄物も、製造工程、性状や成分、荷姿、排出頻度などその条件によって再資源化方法は様々です。また、一度再資源化の仕組みを構築し、運用した後も様々なリスク対策が必要です。アマタでは、全国約300箇所に及ぶネットワークと自前の循環資源製造所により、安定・適正かつ安心な再資源化を行い、お客様のリサイクル業務を徹底的に合理化します。

また、資源・素材の再資源化オペレーションだけでなく、排出計画から運用、再資源化に至るまでのコンサルティングや契約書の管理、情報提供などによるコンプライアンス対応支援など環境に関する問題を総合的に解決するサービスも充実させています。

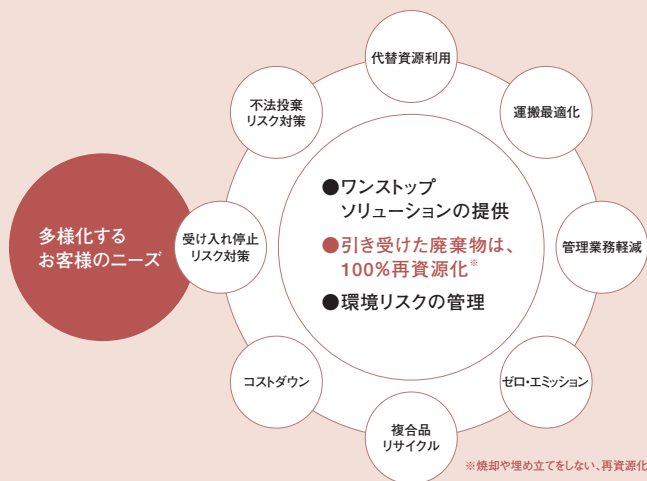
[独自の方法で100%再資源化を実現するアマタの製造所]



◀ 姫路循環資源製造所



▲ 茨城循環資源製造所



\*焼却や埋め立てをしない、再資源化の実現。

### 多様化するお客様のニーズにしっかりと お応えするリサイクルソリューション

これまでアマタには、再資源化に関する様々なニーズが寄せられてきました。ここ数年、不法投棄リスクや受け入れ停止リスクといった環境リスクに関するニーズが高まりを見せる中、お客様のニーズも廃棄物の再資源化だけでなく、環境リスクの管理へと多様化しています。

そんなお客様の一つ一つの要望に対し、丁寧にヒアリングを実施しています。それがたとえ、これまでにならぬご要望であっても、四半世紀以上も培ってきたノウハウをもとにしっかりと対応しています。お客様のニーズの多様化がアマタのリサイクルソリューションをさらに進化させていきます。

## CSRコンサルティング事業

「廃棄物・リサイクルガバナンス体制」構築のサポートや環境リスクを顕在化させ、その重要度を認識してもらうための廃棄物リスク診断サービス、ゼロ・エミッションを確実に、継続的に運用するためのコンサルティングなど、環境リスク低減をサポートするメニューが多数あります。

新規顧客獲得については、環境リスクや法令に関する無

料セミナー、サンプル分析のキャンペーンを積極的に実施しています。また、企業価値向上のためのCSR事業提案コーディネート業務も増加中です。



## ドゥタンク事業

知的支援を行う「シンクタンク(頭脳集団)」であると同時に、現場で実際に問題の本質を探り、事業を生み出していく「ドゥタンク(行動集団)」として事業を展開していきます。2005年7月に開設した「持続可能経済研究所」がその拠点で、農林水産業の変革を軸に地域の持続可能な経済システムの構築を目指しています。事業のひとつが地域再生事業。健康的な衣食住と、美しく豊かな農山漁村の再生

に向けて農業、林業、水産業それぞれの専門家が自然資本の再生ソリューションを提案し、実施支援しています。



## 認証事業\*

過剰利用により、近い将来枯渇してしまう危機にある世界の森林資源や水産資源。適切な商品選択を行うことで消費者サイドから資源の枯渇を食い止める社会を形成するために、アミタは1999年にFSC(森林管理協議会)森林認証、2006年にMSC(海洋管理協議会)漁業認証の審査業務を日本でいち早く開始し、資源の責任ある利用を推進しています。



FSC Trademark ©  
1996 Forest Stewardship Council A.C.  
FSC-SECR-0095

FSC(森林管理協議会)



MSCI0128  
<http://www.msc.org>

MSC(海洋管理協議会)

\*アミタはFSC認定認証機関Soil Associationと提携しFSC認証審査を、MSC認定機関TQCSIと提携しMSC COC認証審査を実施しています。

# 財務諸表

## 連結貸借対照表

(単位:千円)

科 目	当 期 (平成19年3月31日現在)
<b>(資産の部)</b>	
流動資産	1,293,026
固定資産	1,716,495
有形固定資産	1,327,210
無形固定資産	140,834
投資その他の資産	248,450
資産合計	3,009,522
<b>(負債の部)</b>	
流動負債	1,054,900
固定負債	729,073
負債合計	1,783,973
<b>(純資産の部)</b>	
株主資本	1,222,342
資本金	463,319
資本剰余金	396,419
利益剰余金	363,346
自己株式	△742
評価・換算差額等	3,206
純資産合計	1,225,549
負債純資産合計	3,009,522

## 連結損益計算書

(単位:千円)

科 目	当 期 (平成18年4月1日～ 平成19年3月31日)
売上高	4,201,539
売上総利益	1,714,236
営業利益	153,470
営業外収益	12,678
営業外費用	50,250
経常利益	115,898
特別利益	1,250
特別損失	7,938
税金等調整前当期純利益	109,210
法人税、住民税及び事業税	50,350
法人税等調整額	△1,072
当期純利益	59,932

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科 目	当 期 (平成18年4月1日～ 平成19年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△85,630
投資活動によるキャッシュ・フロー	△550,936
財務活動によるキャッシュ・フロー	400,228
現金及び現金同等物に係る換算差額	194
現金及び現金同等物の減少額	△236,143
現金及び現金同等物の期首残高	474,602
現金及び現金同等物の期末残高	238,458

## 連結株主資本等変動計算書 (平成18年4月1日～平成19年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本					評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
平成18年3月31日残高	256,186	189,207	334,420	-	779,814	5,551	5,551	86	785,452
連結会計年度中の変動額									
新株の発行	207,133	207,212	-	-	414,345	-	-	-	414,345
剰余金の配当(注)	-	-	△31,006	-	△31,006	-	-	-	△31,006
当期純利益	-	-	59,932	-	59,932	-	-	-	59,932
自己株式の取得	-	-	-	△742	△742	-	-	-	△742
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)	-	-	-	-	-	△2,345	△2,345	△86	△2,431
連結会計年度中の変動額合計	207,133	207,212	28,925	△742	442,528	△2,345	△2,345	△86	440,096
平成19年3月31日残高	463,319	396,419	363,346	△742	1,222,342	3,206	3,206	-	1,225,549

(注) 平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

## 個別貸借対照表

(単位:千円)

科 目	当 期 (平成19年3月31日現在)	前 期 (平成18年3月31日現在)
<b>(資産の部)</b>		
流 動 資 産	1,114,900	1,242,333
固 定 資 産	1,808,935	1,249,786
有形固定資産	1,231,392	953,920
無形固定資産	17,142	9,565
投資その他の資産	560,400	286,300
資 産 合 計	2,923,835	2,492,120
<b>(負債の部)</b>		
流 動 負 債	982,206	1,180,696
固 定 負 債	729,073	526,057
負 債 合 計	1,711,279	1,706,753
<b>(資本の部)</b>		
資 本 金	—	256,186
資 本 剰 余 金	—	189,207
利 益 剰 余 金	—	334,420
其他有価証券評価差額金	—	5,551
資 本 合 計	—	785,366
負 債 及 び 資 本 合 計	—	2,492,120
<b>(純資産の部)</b>		
株 主 資 本	1,209,350	—
資 本 金	463,319	—
資 本 剰 余 金	396,419	—
利 益 剰 余 金	350,353	—
自 己 株 式	△742	—
評 価 ・ 換 算 差 額 等	3,206	—
純 資 産 合 計	1,212,556	—
負 債 純 資 産 合 計	2,923,835	—

## 個別損益計算書

(単位:千円)

科 目	当 期 (平成18年4月1日～ 平成19年3月31日)	前 期 (平成17年4月1日～ 平成18年3月31日)
売 上 高	3,961,109	3,067,116
売 上 総 利 益	1,667,052	1,395,814
営 業 利 益	121,359	228,524
営 業 外 収 益	25,458	25,078
営 業 外 費 用	50,139	40,594
経 常 利 益	96,678	213,008
特 別 利 益	1,250	2,155
特 別 損 失	7,838	27,235
税 引 前 当 期 純 利 益	90,089	187,927
法人税、住民税及び事業税	38,350	100,621
過 年 度 法 人 税 等	—	4,164
法 人 税 等 調 整 額	4,800	△19,661
当 期 純 利 益	46,939	102,802

## ■ 会社の概要 (平成19年3月31日現在)

会社名 アミタ株式会社 (AMITA CORPORATION)  
 代表取締役 熊野 英介  
 本社住所 〒102-0075 東京都千代田区三番町28番地  
 TEL:03-5215-8255(代表)  
 FAX:03-5215-8256  
 資本金 463,319,890円  
 設立 1977年4月1日  
 社員数 124名  
 主要取引銀行 みずほ銀行 市ヶ谷支店  
 三井住友銀行 麹町支店  
 三菱東京UFJ銀行 麹町支店

## ■ 役員の構成 (平成19年6月27日現在)

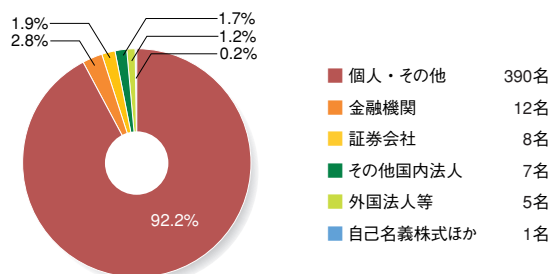
代表取締役 熊野 英介  
 常務取締役 藤原 仁志  
 常務取締役 杉本 憲一  
 取締役 瀧本 英三  
 取締役 清水 太郎  
 取締役 竹林 征雄  
 監査役 山本 茂樹  
 監査役 山田 一博

## ■ 株式の状況 (平成19年3月31日現在)

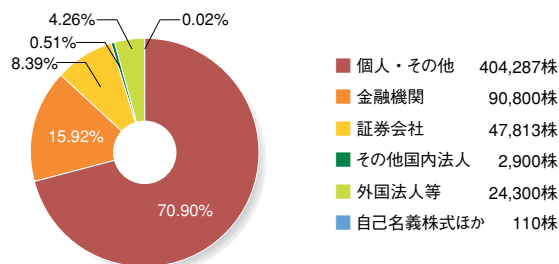
- (1) 発行可能株式総数 1,200,000株  
 (2) 発行済株式の総数 570,210株  
 (3) 株主数 423名  
 (4) 大株主

株主名	所有株式数(株)
熊野 英介	186,470

### 所有者別株主数



### 所有者別株式数



# 30<sup>th</sup> TOPICS

## リスペクト3R大賞2006

2006年度、アミタは経済産業省より「平成18年度3R製品普及促進に関する新たな方策の検討事業」の委託を受け、「リスペクト3R大賞2006」として、再生繊維等によるエコバッグのデザインコンテストを行いました。「リサイクルが必要だから使うバッグではなく、進んで使いたくなるようなエコバッグ」のデザインを新聞・雑誌で募集したところ、全国から作品が寄せられました。

優秀作品は環境展「エコプロダクツ2006」における来場者人気投票などを通じて選ばれ、再資源化率の低い繊維再生技術の認知向上につながりました。



## 若武者育成塾

若武者育成塾とは、アサヒビール株式会社が主催する実践的な環境教育イベントで、環境問題を解決していける未来人材を育成することを目的としています。

アミタは、この企画運営に携わっており、2006年8月21～24日の4日間、愛媛県西条市に四国四県から高校生22名が集まって実施されました。



## 国連グローバル・コンパクト

グローバル・コンパクトとは、国連が世界各国の企業に対して、人権・労働基準・環境・腐敗防止に関して高いレベルの遵守を要請するためのプロジェクトです。アミタは、2002年度から参加し、2006年度も環境分野での社会貢献を実施しました。





## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	3月31日 その他必要があるときは取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定
配当金受領株主確定日	3月31日及び中間配当を実施するときは9月30日
公告方法	電子公告 ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合に、日本経済新聞に掲載する
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

# AMITA

〒102-0075 東京都千代田区三番町28番地 TEL.03-5215-8255(代表) FAX.03-5215-8256

<http://www.amita-net.co.jp>

